

学習指導案の形式（例） 高等学校

◇学習指導案には、定まった形式や基準はない。生徒の実態や指導内容、指導者の構想や意図により、様々に創意工夫していくことが求められている。「高等学校学習指導要領解説（平成30年7月 文部科学省）」、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（令和3年8月 国立教育政策研究所）」等を参考に作成する。

保健体育科（科目名）学習指導案

〇〇高等学校 〇〇科 〇年〇組
令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時 〇〇教室 指導者 〇〇 〇〇

1 単元名

◇学習指導要領に示されている「第2 各学年の目標及び内容 2 内容」の項目を「内容のまとめ」という。この「内容のまとめ」を踏まえて、単元や題材を設定する。内容のまとめと、単元や題材との関係は、教科や領域によって異なる。

2 単元の目標

◇学習指導要領の「内容のまとめ」の記載事項等を踏まえ、学習指導要領解説の表記などを用いて生徒の実態に即した目標を設定する。

- 例（1）「知識及び技能」に関する目標（例：～理解する。～身に付ける。等）
（2）「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～表現する。等）
（3）「学びに向かう力、人間性等」に関する目標（例：～態度を養う。等）

3 単元の評価規準

- ◇評価規準の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」や、「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価」等を参考にして適切に設定する。
◇体育では、学習指導要領解説の＜例示＞の文末を変換するなどして作成する。
◇保健では、知識については、解説の「～理解できるようにする」と記載してある部分の文末を変換するなどして、技能については、解説の「～できるようにする」と記載してある部分の語尾を変換するなどして、思考・判断・表現については、解説の「3 内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関する記載を基に、主体的に学習に取り組む態度については、「内容のまとめ」ごとの評価規準を基に、それぞれ作成する。
◇評価規準の前には「①」などの「〇数字」を記載し、「5 指導と評価の計画」とのつながりを明確にすること。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(例) 〇知識 「～について、（理解したことを）言ったり、書き出したりしている。」 「～について、学習した具体例を挙げている」 等 〇技能 「～ができる」 等	(例) 「～している」 等	(例) 「～しようとしている」 等 ただし、安全に関する項目は「～確保している」等とする。

4 指導上の立場

○単元観

◇指導者の立場で書く。

○生徒観

○指導観

- ◇単元観…学習指導要領の記述から「単元を通して身に付けたい力」について整理すると共に、「単元の系統性」(何を学んできたのか、今後どんな学びにつながるのか)も併せて整理する。その際、教科書教材や資料集等の分析を行い、その単元の難しさを把握し、生徒の学習課題を把握して書く。
- ◇生徒観…単元や本時に関する「既習事項の定着状況」と「学習に対する学級の課題」を生徒の実態として記述し、整理する。
- ◇指導観…単元観と生徒観で記述した「学習上の課題」を克服するための指導者の意図や思いを「学習指導のためのアプローチ」として具体的な指導・支援の手立てを書く。これが研究授業の「研究仮説」や「提案性」につながる。

5 指導と評価の計画 (全○時間)

(数字○・・・「3 単元の評価規準」のうち、その時に評価し、記録に残すもの)

次	時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
一	1	◇生徒の立場で書く。		②		○○に着目して、問題を見いだして課題を設定している。【記述分析】
	2	◇「知」は「知識・技能」、 「思」は「思考・判断・表現」、 「態」は「主体的に学習に取り組む態度」を示している。	①			○○について理解している。【記述分析】
二				②	○○の特徴を見いだして表現している。【記述分析、行動観察】	
三						◇「○」印は、評価規準に照らして、生徒全員の学習状況を記録に残す場面として示している。空欄は評価を行わないことではなく、形成的な評価に重点を置いて、生徒の活動を見取り、次の指導に生かしたり、生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などについて積極的に個人内評価を行ったりする。

◇記録に残す評価の設定は、単元に応じて適切に設定する。定期考査等の活用も考えられる

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇「2 単元の目標」「5 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
<p>1</p> <p>◇生徒の立場で書く。</p>	<p>◇指導者の立場で書く。</p>	<p>◇生徒の立場で書く。</p>
<p>目標</p> <p>◇単元における本時の位置づけを踏まえて、何をどのように学ぶのかを明確にし、生徒の立場で本時の目標（又はめあて・課題等）を書く。</p>		
<p>2</p> <p>◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。</p> <p>◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。</p> <p>◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。</p>	<p>◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に学習を進めるための手立て ・生徒が対話的に学習を進めるための手立て ・生徒が学習を深めるための手立て ・生徒一人ひとりの学習状況に応じた手立て ・予想される生徒の反応 ・資料提示のタイミングや方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等 <p>◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p> <p>◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立ての例を示す。</p>	<p>◇単元を通して資質・能力を育成する観点から、本時の評価規準を踏まえて、本時的に表現する。評価は1、2箇所に絞る。評価規準に合わせた観点の明記する。評価方法を具体的に書く。</p>
<p>4</p> <p>まとめ</p>	<p>◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時の目標と対応したまとめを書く。</p>	<p>◇評価方法の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノート、ワークシートの記述 等
<p>5</p>	<p>◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。</p>	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。

(3) 準備物

- ◇ワークシート、プリント、その他必要な準備物を書く。